

東京第四団  
機関誌



OCT. 1977

皆さん、こんにちは。  
何かを失いつつある様な近頃のスカウト活動。色々な疑問や問題はあるだろうけど、積極的な行動をする事ができるのは、僕達スカウトなんだよね。そこで「僕らのスカウト活動を」と、さっそく手懸けたのが三十周年記念行事のいくつかだ。そして今度は、この機関誌も再びスカウトの手で発行することになった。その際に、前号ミスタースマイルからこんな言葉を頂いた。  
『スマイルがスカウティングの終点ではないということをお忘れしないで、スマイルをつくる過程でみんなが自分の意見を出し合い、一緒に考えるということが大切なのです。だからスマイルはいつも完成品ではありません。』と。僕達はこの言葉を大切に、作製にあたりみんなで協力し、団の向上に役立ちたいと思う。だから、みんなも良かったこと、きにいらぬこと、お知らせ、どんなことでも言ってくれればいい。

僕達、私達のスマイルなのだからね。  
そこでまずは、キャンプ特集といってみよう。キャンプといえは、こんな思い出があるなあ。あの日の夕食は忘れもしない鳥肉のホイール焼きだった。大好きな鳥肉は一番最後に食べようと、他のおかずでごはんを食べていたところに、フライを支えていた竹が折れて、溜り溜っていた雨水の洪水。無惨にも、足元を流れて行くのは大事な僕の鳥肉。冷たく薄まったおみそ汁、サラダは泥だらけ。泣くに泣けないとは、あの口惜しさだなあ。なんてね。楽しいだけが思い出じゃないからね。辛かった、口惜しかった、なんて一生懸命悩んだ事の方が多いかもしれない。でもサ、そんな時なんだ、「スマイル」って微笑んでごらん。ホラ、あんなに悩んでた事が一番いい思い出になるんだから！  
さあ、君達のキャンプは、どんなことがあったのかな……。



KIZI



SHIGI



RISU



TORA



TAKA



RAION



NIWATORI



ZŌ



KUMA



KAMOSHIIKA

## 「ブラウニーキャンプの 思い出」

ブラウニー 梶野 今日子

五十二年、七月二十七、八、九日の二泊三日の忍野村へのキャンプは、楽しかった。どういふ楽しみかというとうちではできないものができたからだ。たとえば、山中湖へのハイキング、食事の用意、昼寝などができるからだ。うるさい東京ではまずできない。そんなところが印象的だった。はじめてのキャンプだからそう思うのかな。

## 「ブラウニーのキャンプ」

ブラウニー

ブラウニーのキャンプは、はじめてです。何日も前から、リュックの中へ荷物を入れたり、出したりして楽しみにしていました。新宿までしかお母さんが見送りに来てくれませんが、うきうきしていてちっともさみしくありませんでした。バスの中でなぞなぞをしているうちに、おなかがグーとなりました。おむすびがともおいしかったです。民宿のおばさんが、気持ちよくわかえてくれました。おばけ大会とキャン

プファイヤーが、雨のためできなくなったのが、さんねんでした。リーダーたちに、いろいろお世話になりました。ロープ人形を作った時が、楽しかったです。山中湖の近くのお店でおみやげを買ったら、急に、お母さんに会いたくなりました。でも、来年のキャンプがまち遠しいです。



## 「カブの舎営」

カブ 浦野 真生

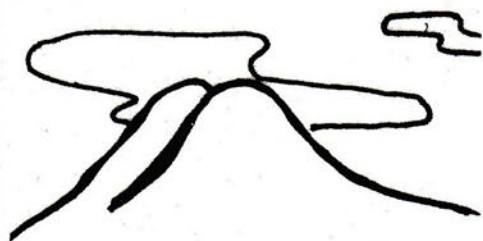
今年の舎営は、清里高原へ行った。第一日目は、ロビンフード団入団式。「とうとうキャンプが始まったんだなあ、どういふことをするんだろう」と思っていた。入団式には、隊長からいろいろな注意を受けた。「隊長から注意されたことちゃんと守れるかなあ」と、とても心配だった。第二日目は、シャーウッドの森へ行った。午前は、いろいろな木や竹やひもで弓矢やおのを作った。みんな熱心に自分の作るものを作っていた。ぼくは弓矢を作った。むずかしい所や、わからない事は、デンダットが教えてくれてよく作れた。それが終わるとすぐに追跡ミニハイクをした。リボンの数を二個まちがえてしまった。途中で、風船の悪代官を弓矢でわっていった。とても楽しかった。午後からは、いろいろな植物を集めて比べっこをした。五組はてんでだめだった。キャンプファイヤーは、雨のために中止になってしまった。第三日目は、大ピクニックへ行った。とても疲れた。でも馬や牛が見れてよかった。ジャージの事や、夷

験農場のことを係の人に教えてもらった。

ジャージの牛乳はとてもおいしかったので、「家族の人達にも飲ませてあげたいなあ。」と思った。キャンプファイヤーは、とても楽しかった。あとで花火もやって花火といっしょに疲れもふっとんだ。第四日目は、ついに帰る日だ。今まで隊長から言われた注意やいろいろな事がちゃんと守れたかどうかわからないけれど、ほくとしてはできたと思う。

帰りのバスで、安西リーダーの落語はともおもしろかった。いろいろなことをしたけど、もっといたいと思った。とてもとても楽しい三泊四日の舎営は終わりで。

77



(北川 謙治)

### 「キャンプの思い出」

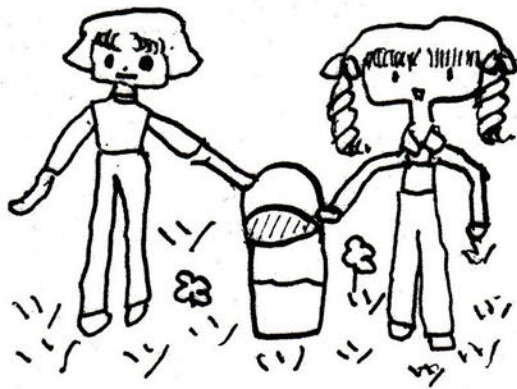
ジュニア 岡部 正実

私は、子供どうしで何もかもやるという事は始めてなので、「出来るかな」と少し心配でしたが、楽しい三日間のキャンプのおかげで、キャンプ中はそんな心配事などちっとも浮かびませんでした。

キャンプに行った日、私はまりちゃんといっしょに水くみ当番でした。夜の水くみはとてもこわかった。なまあたたかい風が吹いて来たかと思ったら、私とまりちゃんの間を光が通りぬけました。私はおどろいて後ろをふり向いて見ました。見るとそれはローバーのお兄さんでした。しばらくして公園を通る時には、もうローバーのお兄さんはいませんでした。そして、もうねる時間になったので、ねぶくろをひき、タップスが終わったので、私たちの班の人は、みんなすぐ寝てしまいました。そして、しばらくすると、リーダーたちが見まわりに来て、「うるさいわね、早くねなさい、何度いっただらわかるんですか」と大声でどなりまわりました。それは、リーダーがカブスカウトの人と、まちがえたのです。私たちのすぐそば

では、カブスカウトがテントをはって、私たちのようにキャンプをしていたのです。そのカブスカウトの人と、私たちの班は、まちがえられたのです。そして、リーダーが大声でどなったので、みんな起きてしまいました。次の日の開会式でリーダーが、私たちにあやまりました。

とても楽しかった三日間でした。来年も又、キャンプにさんかしたいと思っています。たまには子供どうしの生活も、とても楽しいものだと思います。おわり。



(小久保裕子  
小峰佐和子)

# 「CAMP IN INBA」

ボーイ 鈴木健之

時：八月五日～八月九日

所：千葉県印旛郡印旛沼

参加者：米村・菊池・安藤・安西リーダー・井原上級班長・スカウト鈴木・小崎・大島・服部・加藤以上十名。

一日目ー十時集合、キャンプ地についてから開拓・設営をした。また、今回からテントが新しくなり、ランブやいろいろな新器具の使用で先が明るくなってきた。

二日目ー炊事の時間・内容の点でリーダーからカミナリがおちたりしたが、朝から夜まで楽しい一日だった。

三・四日目ーこの二日間はリンツとキャンブファイヤーで忙がしかった。まずリンツは、三日目一時ごろ米村さんの運転するレンタカーに乗ったが、時には百キロをこすスピードを出す。恐ろしくてたまらない。

そして白井駅について、そこから徒歩で十キロほど歩き小林牧場につくはずだが、世の中そんなにうまくなく全然わからない道を行く。やっとの思いで牧場に着く。する

と他の団のスカウトが何十人という。僕たちはスカウトだけで五人しかない。他の団のスカウトの目がつらいけれど、僕たち五人は四団根性を出して「オスノ」と言うと、むこうから「オスノこんにちは」と快い返事がかえってきた。夜食はラジオを聞きながらパンとやきとりとコンビーフのかんずめ。みんな疲れていたのだから知らないうちにねむりにつく。朝起きると雨、つらいな。雨の中を歩いて小林から白井へ。そこで米村さんの車を待ち、野営地へ。つかれたびー。とても充実した四日間でした。

## 「私が見つけたキャンプの目的」

GSシニア 黒川 祐子

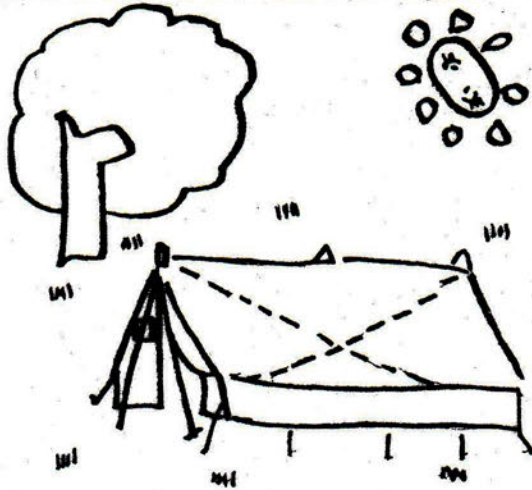
キャンプ生活第一日目の夜、スカウトロボの時、リーダーからこんな質問がありました。「みんなは、何のためにキャンプに来ているの？」と。私は一瞬、何かいちゃばん弱い所をつかれたような感じで、困ってしまいました。ここ何回かキャンプに行っています。真剣になってキャンプに行く目的など考えたことがなかったからです。

その問いに対して、みんなの答えはさまざまでした。その中でも私が共感させられた事は、次の三つにまとめることができず。一、自然に親しむため。二、物（資源）の大切さを知るため。三、集団生活を知るためです。私達都会っ子は、普段見ることのできない大自然の姿を知り、守るということ。さらには大切に思いました。また、戦後生まれの私達は、物に不自由な思いもせず育ってきました。だからキャンプへ行って、火・水・電気など資源の大切さ、ありがたさを知るべきだと思いました。「集団生活を知る」というのは、単に学校生活のような集団ではなくともっと深く、もっ



(鈴木健之)

と暖かなキャンプでの生活のことで、そこでは、自分勝手な行動をしないということが大事だと思えます。この他にもみなさんは、いろいろなことに気づかれると思います。来年キャンプに行ったならば、私が知ったキャンプの目的、一、二、三、をよく考えながら行動し、有意義なキャンプ生活を送りたいと思います。



(黒川祐子)

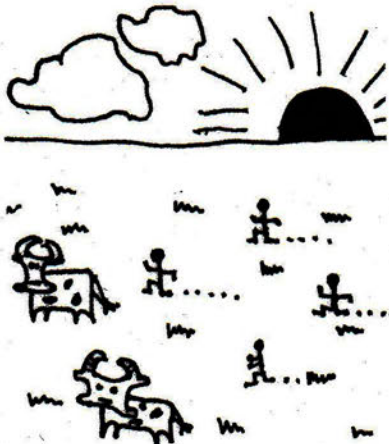
### 「初めての北海道」

B S シニア 皆沢嘉幸

僕達シニア隊は、今年の夏変わったキャンプを行ないました。それは、四団のOBの志水さんの紹介でキャンプをしながら牧場で働くということでした。当然、働かせで頂くので、長期間でなければいけません。ボーイ隊の時よりはるかに長い期間、そして遠い場所、牧場での生活など、何もかも新鮮のような気がしました。実際十二日間という長い間、団体生活してみると、人それぞれの個性がよくわかってきます。それにどうしてもみんなわがままになってしまい、ときどきチームワークがみだれてしまいます。だが、ぼくが思うには、団体生活を本当に学ぶならば、長期間のほうがよいと思えます。その点で、今回のキャンプは、成功したような気がします。

話は変わりますが、今回のキャンプでどのような生活をおくったかという験、まず、一日を三回に分けて、朝は五時に起きて朝食までを第一部、朝食が終ってから昼食までを第二部、昼食が終ってから六時頃までを第三部として働きました。次に仕事内容

を説明しますと、「乾草上げ」「乳ふき」「牛舎の掃除」「仔牛のエサやり」「牛の糞掃除」などでしたが、「何でもやります東京四団」ということで、「牛乳を通すパイプ掃除」「小屋作り」「窓ふき」「セメント工事」「雑草取り」など色々しました。連日のハードスケジュールの為に、寝袋の中に入ったと思うとみんなすぐに寝てしまいう始末です。それでも十二日間が、あっという間に過ぎてしまいました。今回のキャンプの様な経験は若いうちでなければ出来ないし、又、我々都会人にとっては、将来おそらく出来ない事でもあるので、これからの人生にとってもたいへんプラスになると思えます。兎に角たいへん貴重なキャンプでした。



(金子和樹)

「阿世湯キャンプ」

太田 幸子  
新井 幸子

東京に何十日も雨が続けている最中の八月二十四日から二十八日まで、中禅寺湖畔の阿世湯キャンプ場に行った。気温は十四度で北海道よりも低いと新聞に書いてあったので、まるでスキーにでも行くようにセーターやヤッケを持って行った。スカウト五名、リーダー三名、ローパー二名の少数のキャンプだった。中禅寺湖の遊覧船に乗って、阿世湯に近づくにつれて厚い雲が広がり、今にも雨が降り出しそうだった。幸いな事に、設営の時はポツポツと降った程度だった。二日目は一日中雨でとても寒く、ありったけの洋服を着込んだ。この日の昼食はドライカレーだった。でも、カレー粉を入れ過ぎたのでからくて、飲み物無しではとても食べられなかった。三日目の朝はシュガーボンだけだったので、ローパーはとても物足りなそうだった。そして、待ちに待ったフィールドトリップだ。三人と二人に別れ、それぞれ違うコースを歩いて、湯元のユースホテルにスカウトだけで泊った。湯元までのコースがとても

きつく、籠を登ったり剣しい山道を何時間も歩いた。泥沼にはまった事もあった。ユースに着いてからはとても楽しく、たくさんの人と友達になった。食事を作らなくてもいいのが何よりも嬉しかった。翌朝、あの寒い阿世湯には帰りたくなかったが、しかたなくお昼ごろに帰った。そして最後の夜はワイルドパーティーだった。夜遅くまで食べまくり、歌いまくった。そして五日目、曇天の下で撤営をして、さん橋でお弁当を食べ、船に乗ってキャンプ場を離れた。お天気が悪い上に寒くて、泣きたいくらいつらい時もあったけれども……  
楽しかったなあ！



(新井幸子)

昭和52年10月15日 発行  
第102号(復刊4号)  
発行人:東京第4団 スカウト  
編集人:港区虎竹 1-25-12  
大内真人

各隊のキャンプ場

- アライグマ 忍野村
- カマ 山梨県八ヶ岳
- ミニマ 山梨県御殿場市
- B.S.千葉県印旛郡有田
- クマ 山梨県御殿場市
- クマ 千葉県津田沼
- クマ 栃木県阿世湯(日光)

みてー!!

10月29日 毎年恒例のバザールがあります。ぜひいらしてください。010-010-0101 表紙:ボーイズの陣列 (スカウトキャンプ7\*アボーイズ)より